



第1回 （仮称）平和資料館開設準備懇話会

日 時：令和元年8月27日（火）

13：30～15：30

場 所：小倉リーセントホテル（1階）
「ガーデンホール」

次 第

1 開 会

2 市長挨拶

3 懇話会委員の紹介

4 懇話会の目的・進め方

5 座長選出

6 議題

- （1）（仮称）平和資料館基本計画及び実施設計について
- （2）コンセプト等に基づく展示内容の整理について
- （3）（仮称）平和資料館の自主事業（展示以外）について

7 事務連絡

- （1）次回日程について

8 閉 会

(仮称) 平和資料館開設準備懇話会構成員名簿

氏 名	所 属 等
大久保 一哉	長崎原爆資料館館長
後藤 みな子	一般社団法人 北九州市文学協会理事長
近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授
佐方 はるみ	九州女子大学人間科学部特任教授
戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長
風 恵美	松永文庫 室長代理
羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
吉水 請子	極東ファディ株式会社 取締役

(敬称略・50音順)

（仮称）平和資料館開設準備懇話会委員（市出席者）

所属及び補職名	所 属 等
総務局長	小林 一彦
総務局総務部長	山本 浩二
総務局平和資料館担当課長	田爪 康隆

【事務局】

総務局総務課（平和資料館担当）

【会議運営委託業者】

株式会社トータルメディア開発研究所

(仮称) 平和資料館開設準備懇話会の目的・進め方について

1 目的

戦後70年以上が経過し、戦争を知らない世代の方がほとんどとなる中で、戦争の記憶が風化していくことが懸念されている。

そこで、市民に戦争の悲惨さ等を後世に伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとするため、(仮称) 平和資料館の建設に向けた取り組みを進めている。

これまでも、コンセプト等をまとめた基本計画の策定や施設と展示製作の設計を実施しており、令和元年度は施設整備のための建設地の造成等に取り組む定である。

今後は、資料館開館に向けて、自主事業や管理・運営体制等、「ソフト」について、具体的な検討が必要である。

そこで、専門的な見地からの意見も聴取する「(仮称) 平和資料館開設準備懇話会」を開催する。

2 開催期間

令和元年8月～令和4年3月（4回程度）

3 懇話会の進め方（意見聴取事項）

別紙のとおり

4 懇話会後の取り組み

懇話会の構成員の意見を参考に、自主事業や管理・運営体制等をまとめ、事業計画を作成する。

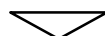
(仮称)平和資料館開設準備懇話会の進め方

8月 27日
(火)

第1回 懇話会

(議題)

- (仮称)平和資料館基本計画・実施設計
- コンセプトに基づく展示内容
 - ・プロローグ(導入展示)
- 館の自主事業(展示以外)
についての意見聴取



1月 予定

第2回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容
 - ・戦前の北九州
 - ・戦争と市民の暮らし
 - ・空襲の記憶
- 館の管理・運営
についての意見聴取

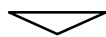


4月 以降

第3回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・運命の昭和20年8月8日・9日
 - ・戦後の復興
 - ・企画展示
- 館の管理・運営
についての意見聴取



第4回 懇話会

(議題)

- コンセプトに基づく展示内容の整理
 - ・エピローグ展示
- についての意見聴取
- 意見のまとめ

(仮称) 平和資料館開設準備懇話会運営要綱

(目的)

第1条 市民に戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとする(仮称)平和資料館(以下「資料館」という。)の開館に向けて運営体制や事業内容等について、専門的な見地から意見を聴く「(仮称)平和資料館開設準備懇話会」(以下「懇話会」という。)を開催する。

(意見聴取事項)

第2条 懇話会では次に掲げる事項について、懇話会構成員から意見を聴取する。

- (1) 資料館のコンセプトに基づく展示内容の整理
- (2) 資料館の事業内容
- (3) その他資料館の運営に関すること

(構成員)

第3条 構成員は次の各号に掲げるもののうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
 - (2) 他都市の平和資料館関係者
 - (3) 本市の産業政策に識見を有する者
 - (4) その他懇話会の目的に沿うとして市長が適当と認めた者
- 2 構成員の任期は令和4年3月31日までとする。ただし、構成員が欠けた場合における補欠構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長及び副座長)

第4条 懇話会に座長並びに副座長を置く。

- 2 座長は構成員の互選により定め、副座長は構成員の中から座長が指名する。
- 3 座長は懇話会を代表し、会務を総理する。
- 4 副座長は座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 懇話会は、座長が招集し、座長が議長を務める。

- 2 座長は、必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、その者から意見を求めることができる。
- 3 懇話会の会議は原則公開とする。ただし、次に掲げる場合は、会議の決定により公開しないことができる。
 - (1) 法令等に特別の定めがある場合
 - (2) 不開示情報(情報公開条例第7条)に該当する事項を審議する場合
 - (3) 円滑な会議運営が損なわれるおそれがある場合
 - (4) その他非公開とすることに相当する理由がある場合
- 4 懇話会は、会議内容が前項ただし書に該当する場合は、次のいずれかの方法により会議の非公開を決定することができる。(なお、初めて開催する会議の非公開の決定については、所管課において確認した当該懇話会の構成員の総意に基づき、懇話会を代表する者(懇話会を代表する者が決定されていない場合は、会議の開催権限のある者)が決定するものとする。この場合において、各構成員の意見が一致しないときは、初めて開催する会議において決定する。)
 - (1) 会議における議決
 - (2) 構成員全員による個別承認
 - (3) あらかじめ指名された構成員等による承認
 - (4) その他懇話会が定める方法

(守秘義務)

第6条 構成員は、知り得た秘密を外部に漏らしてはならない。任期終了後も同様とする。

(庶務)

第7条 懇話会の庶務は、総務局において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関して必要な事項は、座長が定める。

付 則

1 この要綱は、令和元年8月27日から施行する。

議題（１）

（仮称）平和資料館基本計画及び実施設計について

（説明資料）

- （仮称）平和資料館基本計画（概要）
- （仮称）平和資料館実施設計（概要）
- （仮称）平和資料館への意見等

(仮称) 平和資料館基本計画の概要

資料館コンセプト

「市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設」

基本方針(コンセプトに基づく機能)

■戦時下の市民の暮らしや戦後、復興を果たした“まち”の姿を“つたえる”ため 【展示機能】

- ・北九州における戦時下の人々の暮らしや戦後の復興などが分かる資料を活用し、常設展示や様々なテーマによる企画 展示を行う。

■市民の戦争体験や当時を物語る資料等を“うけつぐ”ため 【収集・保存機能】

- ・資料の提供を積極的に市民に呼びかけるとともに、内外の研究機関等との連携を図り、資料の調査・収集を実施する。
- ・収集した資料等を適切な環境と方法で保存するとともに、収蔵資料のデータベースを構築し、資料館内で一元的に管理する。

■北九州の戦争の記憶に触れて、ふるさとを愛する気持ちを“はぐくむ”ため 【調査・研究・学習機能】

- ・市民の体験や寄贈された資料等、収集資料を検証する。
- ・他都市の平和資料館等との連携を進め、収蔵資料を調査・研究する。
- ・学校と連携し、平和学習の場としての活用を図るとともに、市民の生涯学習を支援する。
- ・関連図書の配置や語り部による戦争体験の講演会等、来館者の学びを深める。
- ・展示鑑賞後、来館者が心の変化を確認できる仕組みを検討する。

■人々の交流の輪や資料館の活動、魅力を“ひろげる”ため 【交流・発信機能】

- ・戦争を知らない若い世代と戦争を知る世代の交流に向けた取り組み等を進め、資料館を拠点に 様々な人々の交流や近隣施設への回遊を促進する。
- ・ホームページの開設や収集資料が閲覧できるデータベースを運用する等、資料館の活動や資料の価値等を内外に発信する。
- ・職員が出張し資料解説を行う出前授業等、アウトリーチを実施する。

展示計画

(時代等)

- ・戦前(大正末期)から戦後、北九州市が誕生する(昭和38年)まで

(テーマ)

- ・戦争により大きく変った市井の人々の暮らし・“まち”の様子
- ・北九州を襲った空襲の被害、原子爆弾と小倉
- ・戦後、復興を果たした“まち”の様子

(展示の方針)

- ・来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示
- ・事実 に即した正確でわかりやすい展示
- ・子供たちの目線に立った展示

整備計画

・資料館としての性格を考慮した施設

資料等を保管し公開する場としての性格を踏まえ、堅固な構造や必要な設備を持つ。
諸室は近隣施設との機能分担により、コンパクトな構成に努める。

・人と環境にやさしい施設

誰もが使いやすい施設づくりを目指すとともに、環境にやさしい施設づくりを行う。
勝山公園駐車場敷地を利用した整備であるため、現況の駐車場機能保持に配慮する。

・周辺施設等との親和性がある施設

資料館に入りやすい環境や回遊性を確保するため、周辺施設等との親和性を確保する。

(施設概要)

- ・施設規模等 約800㎡(RC構造1階)

運営計画

(運営・組織・名称)

- ・直営を基本として検討。また、窓口業務等は民間委託の実施を検討。
- ・様々な活動を支える組織体制の構築に向けて、運営方式とあわせて検討。
- ・展示内容などを踏まえ、正式名称をはじめ、愛称や略称なども検討。

(入館料)

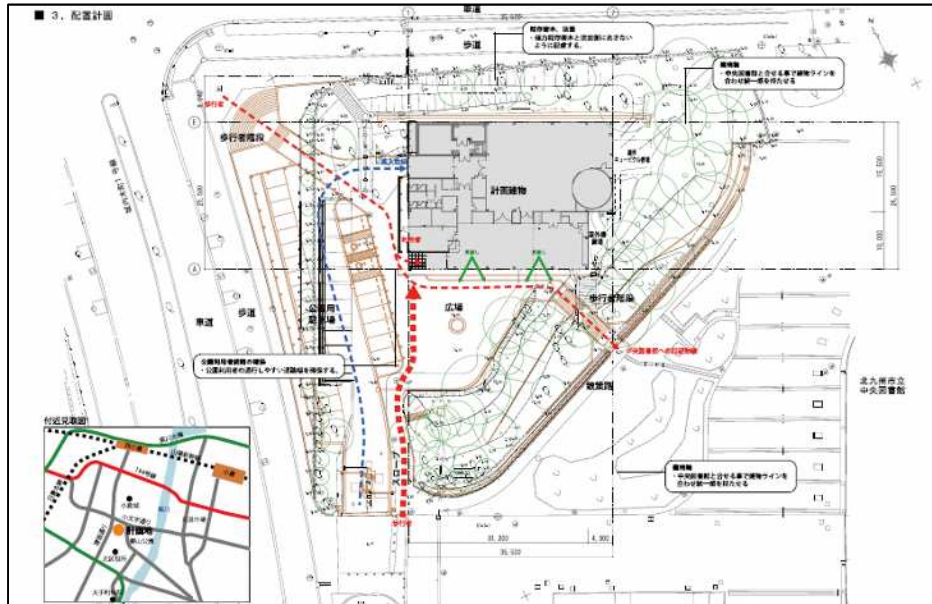
- ・原則、有料とし、具体的な料金体系については検討。

(集客)

- ・近隣施設等との連携やネットワークの構築や観光客等の取り込みを図る取り組みを検討。

(開館日・開館時間)

- ・休館日や資料の整理、展示更新など特別休館日を設定。



1 施設整備の基本方針

(1) 周辺景観に調和した歴史・文化を感じる空間の創造に配慮した施設づくり

都市公園内の市立図書館や松本清張記念館等の周辺の文化・歴史施設に囲まれた敷地特性を活かし、周辺景観や公園景観、自然環境等に調和した施設づくりを行う。

(2) 地球環境に配慮した環境にやさしい施設づくり

南側に大きく庇を跳ね出す建物形状の工夫や日射の調節等、環境負荷低減に配慮した施設づくりを行う。

(3) 必要な機能を有するとともに管理・運営のしやすい施設づくり

資料館として必要な機能を発揮するための諸室のゾーニングを明確にし、コンパクトで明快な同線計画とすることで、管理・運営をしやすい施設づくりを行う。

2 施設概要

(1) 建設場所 小倉北区内4番(勝山公園中央図書館北側駐車場内)

(2) 延床面積 約940㎡(屋外床面積を含めると約990㎡)

(3) 構造 鉄骨造(一部、鉄筋コンクリート造)

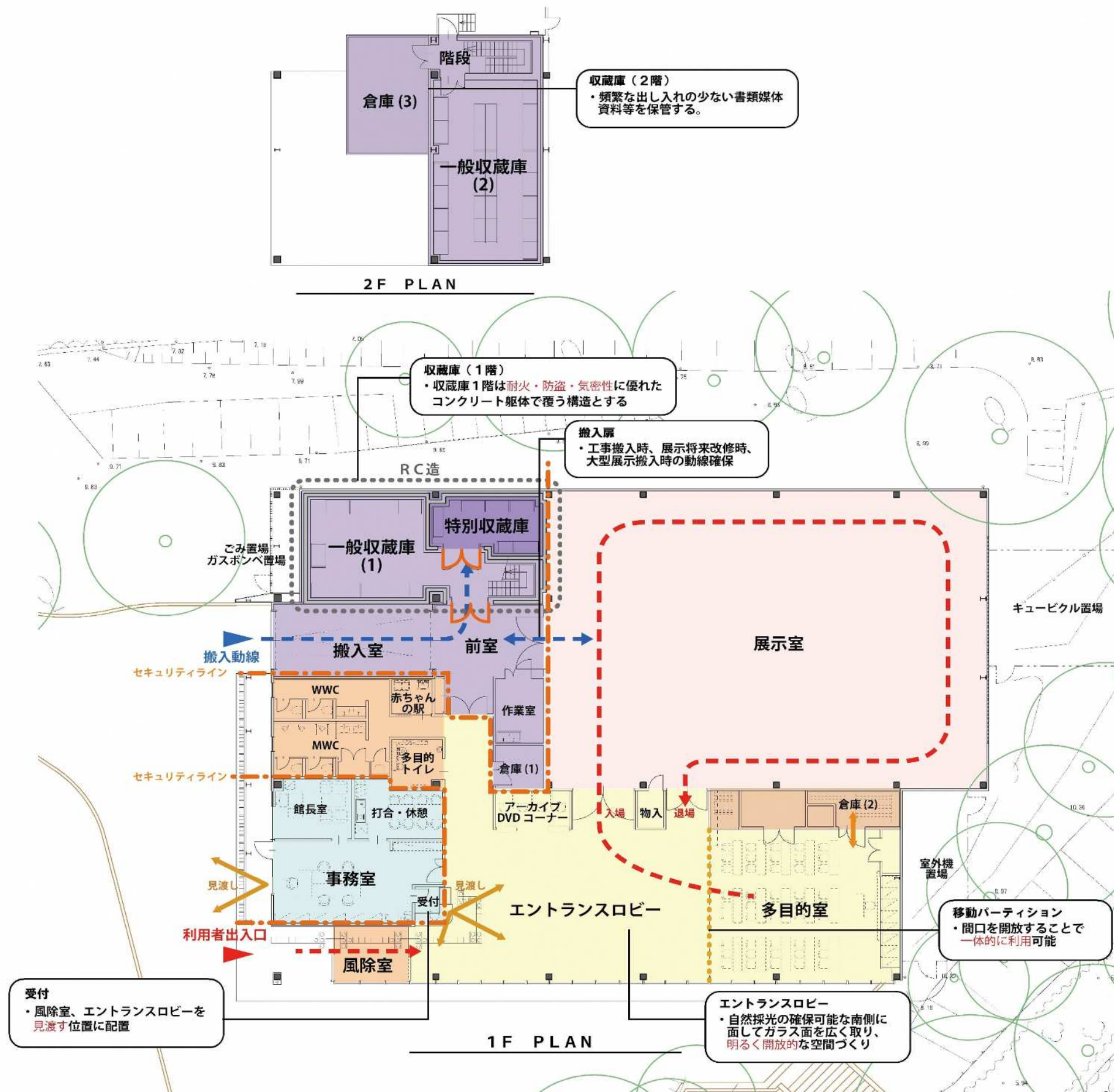
(4) 工事費 約8億円(展示製作を含む)

(5) 各室床面積

施設機能	諸室	面積 (㎡)	施設機能	諸室	面積 (㎡)
展示機能	展示室	341.00	研究機能	事務室(館長室を含む)	47.65
	一般収蔵庫(1階)	51.42		打ち合わせ・休憩室	12.36
収集・保存機能	一般収蔵庫(2階)	54.81	学習・交流機能	団体ガイダンス・多目的室	73.60
	特別収蔵庫	18.77		エントランスロビー	154.81
	収蔵庫階段部	12.72		風除室	11.52
	作業室	8.63		トイレ・赤ちゃんの駅	44.81
	搬入室	31.20	その他	倉庫(1階)	9.40
	前室	26.33		物入他	14.85
	倉庫(1階)	5.88	屋外床面積	キュービクル、室外機置場	47.05
	倉庫(2階)	25.22		ごみ置場、底下スペース他	

(6) スケジュール(案) 令和元年度工事着手(開館時期は工事の進捗に応じて決定)

3 諸室構成・平面計画



(1) 展示機能

① 展示室

- ・展示計画のしやすい整形計上とする。
- ・出入口は入退場各1カ所とすることで出入の交錯を防ぐ。

(2) 収集・保存機能

① 一般収蔵庫

- ・耐火性・防盜性・気密性を配慮する。
- ・内部は調湿性に優れた材料を使用する。

② 特別収蔵庫

- ・他館からの貸借資料等を適切に保管するため、コンクリート壁の設置とともに、壁内空調を行う。

③ 搬入室

- ・2トントラックの駐車を想定したスペースを確保する。
- ・車両全体を入庫し、安全な搬入を実施する。

④ 前室・作業室

- ・空気環境を安定に保つとともに、外気の流入を抑制する。

(3) 研究機能

① 事務室(館長室を含む)

- ・内外を見渡すことができる配置とする。
- ・打ち合わせスペース等を確保する。

(4) 学習・交流機能

① エントランスロビー

- ・南側に面してガラス面を広く取り、明るく開放的な空間づくりを行う。
- ・ロビー内にはDVD・アーカイブコーナーを設け、所蔵資料の閲覧を可能とする。

② 団体ガイダンス・多目的室

- ・小学校等の団体向けの事前説明や講演会等の館の事業用のスペースを確保する。
- ・間仕切り壁を開放し、エントランスロビーと一体的な利用を可能にする。

(5) 学習・交流機能

① トイレ・赤ちゃんの駅

- ・災害による配管破損等に考慮し、収蔵庫と隣り合わないよう配置
- ・車いす利用者用等の多目的トイレを配置する。

1 展示室・平面計画



2 展示製作の基本方針

(1) 展示の基本的な考え

① 展示資料

- ・ 市民から寄贈された北九州の戦前から戦後の市民の暮らしが分かる実物資料
- ・ 米国国立公文書館等から収集した北九州に関係する写真資料、映像資料
- ・ 原爆被災資料（長崎原爆資料館協力） 等

② 対象となる時代

- ・ 戦前（大正末期）から戦後、北九州市が誕生する（昭和38年）まで

③ テーマ

- ・ 戦争により大きく変った人々の暮らし・“まち”の様子
- ・ 北九州を襲った空襲の被害、原子爆弾と小倉
- ・ 戦後、復興を果たした“まち”の様子

(2) 展示のねらい

- ・ 当時の人々の気持ち等に思いをさせ、平和の大切さ等を考えるきっかけとする
- ・ “まち”への誇りや愛着の心を醸成する

(3) 展示の方針

- ・ 来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示
- ・ 事実に基づいた正確でわかりやすい展示
- ・ 子供たちの目線に立った展示

3 展示ストーリー・主な展示設備等



■ プロローグ（導入展示）

- ・ 小倉陸軍造兵廠の位置や規模を表す大型グラフィックの展示。
- ・ 来館者が資料館設置の意義を認識し、展示鑑賞への期待感を高める。



■ 戦前の北九州

- ・ 兵器の製造風景等の映像と工場模型への投影を行うプロジェクションマッピング。
- ・ 小倉陸軍造兵廠の全貌をリアルな立体感で再現する。



■ 戦争と市民の暮らし

- ・ 当時の暮らし振りが分かる再現展示。
- ・ 日々の暮らしが戦争と隣り合わせにあったことを実感する。



■ 戦後の復興

- ・ 旧5市が復興の歩みを進める姿を伝える映像モニター。
- ・ 再び発展し、北九州市が誕生する“まち”の移り変わりを知る。



■ 運命の昭和20年8月8日・9日

- ・ 映像や音響を活用した360度シアター。
- ・ 8月8日の八幡の空襲、翌9日の原爆を搭載した爆撃機が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった出来事を追体験する。



■ 空襲の記憶

- ・ 壁面に投影された言葉をタッチし、様々な証言が浮かび上がる映像装置。
- ・ 市民の過酷な戦争体験に触れる。



■ エピローグ

- ・ タッチペンで感想を書き込める参加型体験装置。来館者の心の変化を感じる。
- ・ 北九州市の平和事業を紹介するパネル展示。

■ 企画展示室

- ・ 常設展示の一部をさらに深める展示等、期間限定で企画展示を行う。
- ・ 資料館の収蔵資料等に限定せず、本市の戦跡紹介や他都市の資料館等からの借用した展示の他に、文化、風俗等をテーマにした幅広い視点で展示を行う。

■ その他

- ・ 小倉陸軍造兵廠で製造されていた風船爆弾等の模型展示
- ・ 北九州に投下された焼夷弾の模型展示
- ・ 戦時下の暮らしを体験的に理解するハンズオン展示
- ・ 各コーナーに資料検索用の画像検索モニター
- ・ 北九州の“いま”・“これから”を紹介するモニター

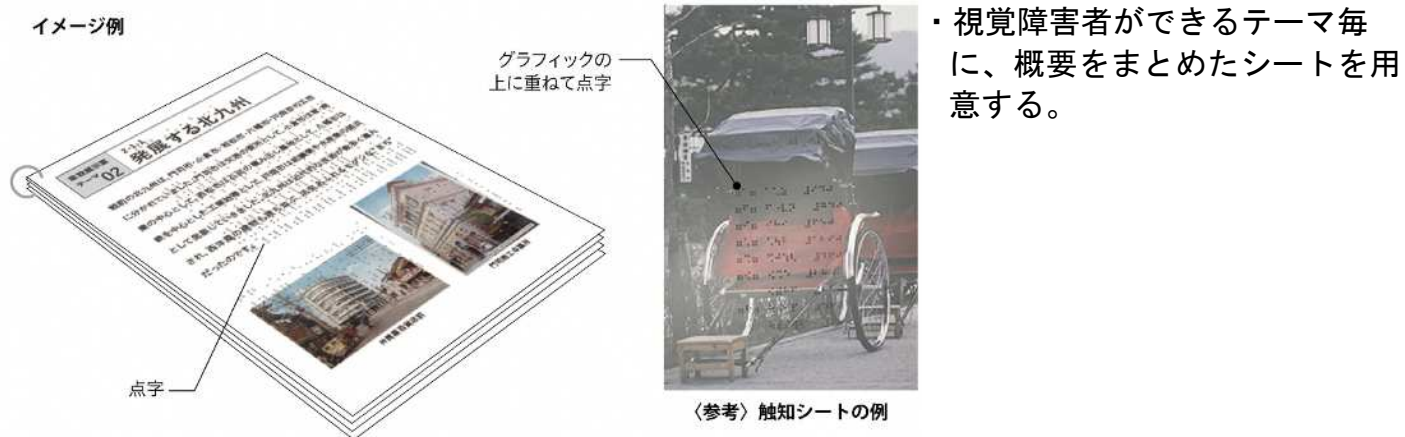


1 障がいを持っている人等、多様な来館者への対応：より多くの方が利用できるよう字幕表示、言語解説、触知感知等の対応を行う。

(1) 多言語による展示解説 (QRコードを使った多言語対応)



(2) 点字を使った展示解説 (触知感知)



(3) 字幕やテロップによる映像解説



2 収集資料の例：関係機関等の調査や市民公募等を行い、資料の収集を進める。

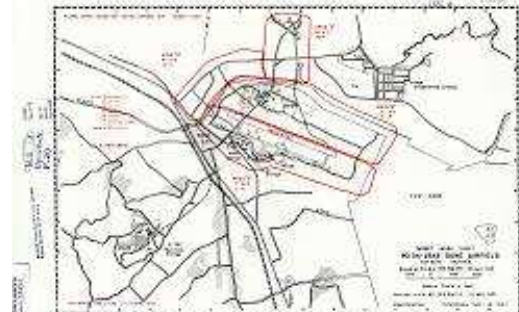
(1) 米国国立公文書館から入手した資料



▲門司の空襲に関する報告書



▲若松・戸畑市街地の航空写真



▲曾根飛行場に関する報告書



▲昭和28年の水害 (小倉北区)

(2) 寄贈資料



▲国防婦人会写真



▲子供用水筒 (陶器製)

(仮称) 平和資料館への意見

■出前講演等での主な意見（基本設計策定後：平成30年11月以降）

(展示内容に関するもの)

- ・戦跡の紹介をしてほしい。
- ・戦争は加害者の側面と被害者の側面とがある。両方の面を平等に扱うことが重要。
- ・日本の戦争の加害責任を伝える。門司港から多くの兵士や軍馬が中国にむけて出て行った。そういったことを伝えないといけない。北九州市には、今、多くの外国人が訪れている。中国、韓国そういう国の人にもメッセージが必要。
- ・非核平和都市宣言の碑は目立ったところにおいてほしい。
- ・日本国憲法の元で、平和の実現に取り組んできた。憲法に関する展示も考えてほしい。
- ・若い人たちが、展示を見て、ただ単に「戦争は嫌だね」という思いだけで終わらない、「やっぱり平和は大事だね」と感じて終われるような工夫をしてほしい。
- ・北九州市には今も外国人が多く住んでいる。南京の話は必要ないけれど、朝鮮人強制労働や徴用工の話は必要。
- ・銃や刀も戦時資料なので、展示してほしい。
- ・エピソードとして、未来に向けたことを展示した方がよい。SDGs等の紹介も必要。
- ・「体当たり勇士」の展示は戦争賛美につながるので、やめてほしい。
- ・平和をしないということを伝えるためには、戦争が起きた経緯を展示し、戦争を起こさないようにするためには何をすればいいのかを展示すべき。
- ・日本人が何人亡くなったかなど具体的な数字を展示してほしい。
- ・小倉に原爆が落ちていたらどのようなになっていたかという想定なども紹介してほしい。

(ボランティア等の活用に関するもの)

- ・語り部の人を活用できる施設にしてほしい。
- ・野外での平和コンサート等ができるよう、敷地の空間を一定程度確保してほしい。
- ・私たちも館の運営に参加できるような仕組み（ボランティア等）を考えてほしい。
- ・講習会を開いて、ボランティア（解説員）を育てることも必要。
- ・市民がボランティアで戦跡を紹介し、フィールドワークするような計画をつくるなど市民参加できる仕組みが必要。

(運営に関するもの)

- ・子供たちだけでなく、平和学習を担当する学校の先生に教えるプログラムも必要。
- ・運営は市民の手にゆだねるべきだ。
- ・館の名称に「反戦」ということ言葉を使ってほしい。
- ・多目的室について一般に広く使える（借りられる）ようにしてほしい。
- ・入館料は、条件によっては無料とするような取り扱いをしてほしい。

■市議会での主な意見（基本設計策定後：平成30年11月以降）

（展示内容に関するもの）

- 市内の忠霊塔や慰霊塔を紹介して欲しい。
- 戦時中に市民が何を食べていたのか「食」についての展示も検討して欲しい。
- 非核平和都市宣言は資料館のコンセプトとなる。玄関の入り口に掲げるべきだ。
- 平和を維持してきたのは外務省や自衛隊が努力してきたからだ。平和を守るために、今の国の取り組み等を紹介すべきではないか。
- 北九州市が日本の工業・産業を支えてきたという側面も伝えていくべきだ。
- 徴用工の賠償問題、国の責任を問えという展示ではなく、事実として、外国人を日本に連れてきて過酷な労働をさせた事実があるので、そのことを展示して欲しい。

（運営に関するもの）

- 運営については主義、主張に偏るようなことがないようにして欲しい。
- 他都市の施設では中学生以下は入場無料というところもある。入場料は他都市の事例等も参考に検討して欲しい。
- 市民が行う平和のイベント等で資料館が活用できるようにして欲しい。
- 資料館の名称は市民に親しまれるようなものにして欲しい。市民公募等も検討して欲しい。

議題（２）

コンセプトに基づく展示内容の整理について

（説明資料）

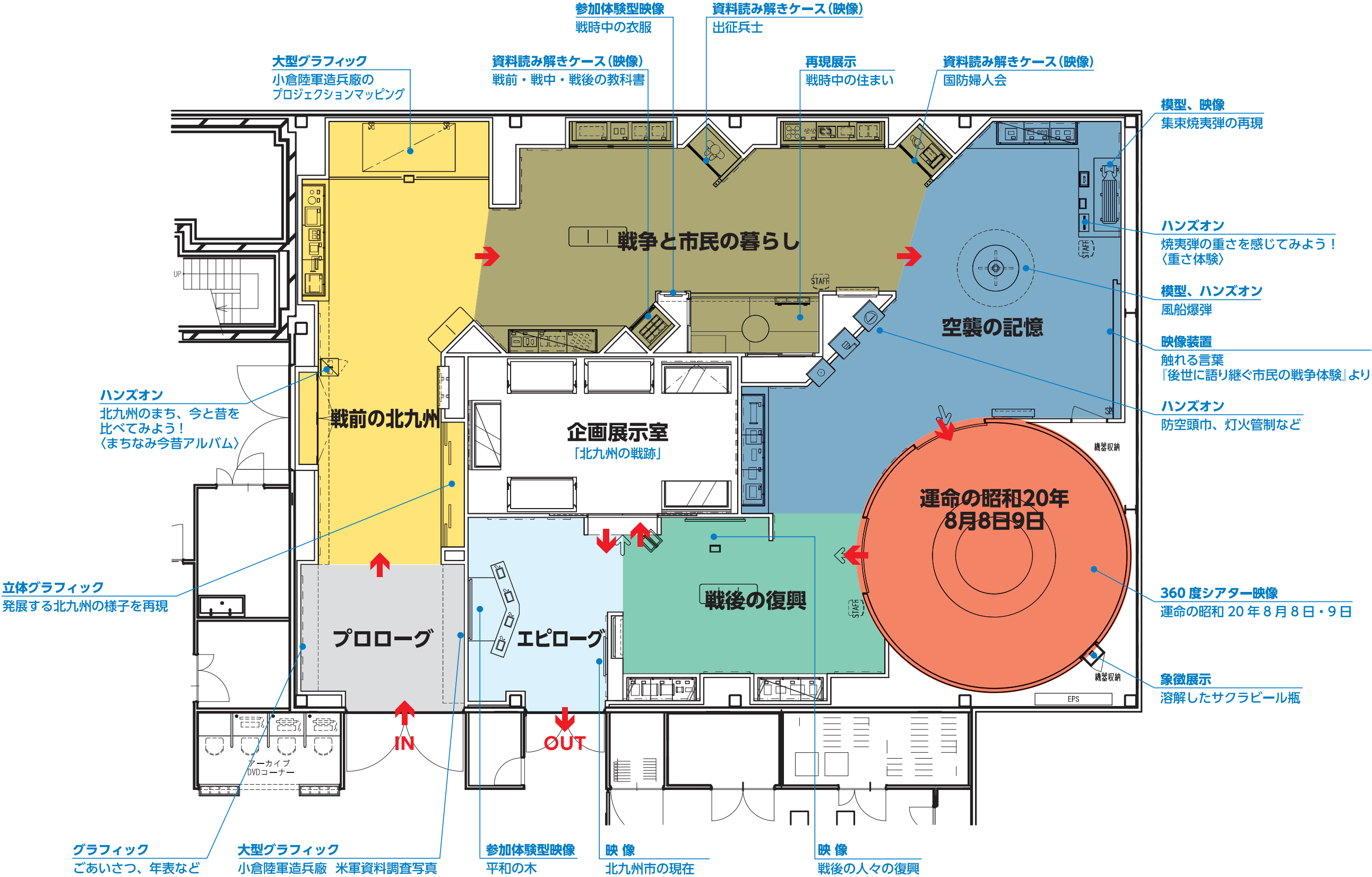
- ・（仮称）平和資料館実施設計「プロローグ展示」

(仮称)平和資料館 展示概要 (展示面積341㎡)

- **展示対象(年代)** : 陸軍造兵廠小倉誘致のきっかけとなった関東大震災が発生した大正12年(1923年)から戦後、造兵廠の跡地で「小倉大博覧会」が開催される等、復興する旧五市が対等合併し、北九州市が誕生した昭和38年(1963年)まで。
- **展示のテーマ** : 「戦争により大きく変わった人々の暮らし・まち」・「北九州の空襲、原子爆弾と小倉」・「戦後の復興」
- **展示のねらい** : 「戦時下の人々の暮らしや気持ち等に思いをはせ、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとする」・「戦後の復興を果たし、新しいまちへ生まれかわった歴史を紹介し、まちへの誇りや愛着の心を醸成する」
- **展示の方針** : 「来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示」・「事実在即した正確でわかりやすい展示」・「子供たちの目線に立った展示」

展示構成表	区 分		展示コーナー	展示概要		
	タイトル	概 要	タイトル・ねらい			
	プロローグ(導入展示)	来館者が、改めて、資料館があることの意義を実感し、展示鑑賞への期待感を高めることができる象徴的な展示を行う。		グラフィック展示	ごあいさつ、年表、小倉陸軍造兵廠位置図(米国国立公文書館資料)等	
	戦前の北九州 (大正末期～昭和１０年)	北九州地域が日本を代表する工業都市として発展するなかで、陸軍師団や軍需施設が置かれていたことを紹介する。	【発展する北九州】 交通の要所や工業都市等、様々な顔を持った都市として発展し、活気があった“まち”の様子や市民のくらしを知る。	実物資料展示(展示ケース)	百貨店絵葉書、新聞記事 等	
			【小倉陸軍造兵廠の誕生】 兵器工場である小倉陸軍造兵廠が設置された経緯、造兵廠と“まち”の関り等を知る。	立体グラフィック	発展する“まち”の様子を当時の写真や絵葉書を活用した再現展示	
		スクロール式資料検索システム※		グラフィック展示	造兵廠誕生の経緯、“まち”と軍との関りの解説	
	模型＋プロジェクションマッピング			造兵廠の工場模型に映像を投影したプロジェクションマッピング展示		
	戦争と市民のくらし (昭和１０年～昭和２０年)	戦時下の銃後を守った市民のくらしや子どもたちの遊び、学校生活などの日常を紹介する。	【市民のくらし】 出征する夫や息子との別れや戦時下の統制と節約の中で生きた市民のくらしを知る。	実物資料展示(展示ケース)	軍隊ラッパ、飯盒等(陸軍十二師団・小倉陸軍造兵廠関連資料) 等	
				グラフィック展示	出征、統制下のくらしに関する体験談 等	
				資料読み解きケース(解説展示)	千人針、武運長久の寄せ書き、衣料切符、各種陶磁器 等	
		スクロール式資料検索システム※	【戦争と子どもたち】 尋常小学校から国民学校への移行により、大きく変わった子どもたちの生活等を知る。	資料読み解きケース(解説展示)	兵士や国防婦人会の活動内容を軍服等の実物資料と映像を活用した解説展示	
				参加体験型映像展示	戦時中の衣類を擬似的に着ることができる参加型体験展示	
				再現展示	戦時中の一般家庭の情景の再現展示	
				グラフィック展示	戦時下の学校や生活についての解説	
				実物資料展示(展示ケース)	雑誌、紙風船、防火双六などの遊び道具、教科書、学徒出陣冊子 等	
				資料読み解きケース(解説展示)	戦前から戦後の教科書の内容の変化を実物資料と映像を活用した解説展示	
	空襲の記憶 (昭和１９年～昭和２０年)	四大工業地帯のひとつであった北九州地域が空襲の目的となったこと、市街地での被害や市民の戦争体験などを紹介する。	【北九州と空襲】 発展した都市ゆえに、空襲目標となった北九州の空襲被害の状況等を知る。	グラフィック展示	北九州空襲に関する被災状況、焼夷弾、風船爆弾の概要	
				模型展示	風船爆弾、焼夷弾	
				実物資料展示(展示ケース)	焼夷弾の破片、爆撃報告書(米国国立公文書館資料) 等	
				ハンズオン展示	風船爆弾に使われた和紙、焼夷弾の重さ体験	
スクロール式資料検索システム※		【空襲と市民のくらし】 空襲から身を守るための市民の生活の工夫や過酷な体験を知る。	グラフィック展示	空襲と市民のくらしについての解説		
			ハンズオン展示	防空頭巾、灯火管制電球かさ 等		
			触れる言葉(参加体験型展示)	壁面に投影したキーワードに触れると戦争体験談や写真が壁面に浮かび上がる映像展示		
			グラフィック展示	原子爆弾と小倉の関係、原子爆弾についての解説		
運命の昭和20年8月8日・9日	昭和20年8月8日の空襲により、大きな被害を受けた八幡の“まち”、翌日に原子爆弾を搭載した爆撃機が小倉をめがけて北九州上空へと到来し、長崎へ向かったことなど、長崎へ投下された原子爆弾との関係について360°シアターで紹介する。	【昭和20年 8月9日 小倉・長崎】 長崎に投下された原子爆弾と小倉の関係等を紹介し、長崎での原爆により多くの人が被害にあったことを知る。	実物資料展示(展示ケース)	原爆被災資料(スプーン、瓦、写真等)、小倉市長檄文 等		
			360度シアター	360度映像を駆使し、音や振動などの体感システムを導入したシアター展示		
戦後の復興 (昭和20年～昭和38年)	戦後の混乱期における人々のくらしや“まち”が復興を果たし、北九州市が誕生したことを紹介する。	【戦後のくらし】 戦後の混乱期を生きた人々の様々な思いや労苦、苦難の多かったくらしを知る。	実物資料展示(埋込型ケース)	空襲によって溶解したサクラビール瓶		
			グラフィック展示	戦後の状況を示すデータ、戦後のくらしについての解説		
	スクロール式資料検索システム※	【平和へ歩み始めた“まち”】 戦後、戦災復興都市に指定された八幡市などの復興や造兵廠跡地の活用等を通して、北九州の“まち”が平和の願いを込めて復興したことを知る。	実物資料展示(展示ケース)	傷痍軍人手帳、北九州大水害写真(米国国立公文書館資料)		
			グラフィック展示	旧五市(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)の復興についての解説		
企画展示 (北九州の戦跡)	所蔵資料に限定せず、他都市の資料館等からの借り受けた資料を活用する等、様々なテーマで企画展を開催する。		実物資料展示(展示ケース) 等	平和祈念像(レプリカ)、小倉大博覧会・門司トンネル博・若戸博パンフレット 等		
エピソード (北九州市の未来のために)	明るい未来を創造するための取り組みを通して、北九州市の“いま”と“これから”を紹介する。		映像モニター	旧五市の復興の歩みを紹介する映像		
			グラフィック展示	旧五市の復興の歩みを紹介する映像		
			映像モニター	旧五市の復興の歩みを紹介する映像		

※各コーナーに資料や写真等の画像検索ができるタッチパネル式情報端末を設置



■導入展示(タイトル)

小倉陸軍造兵廠の位置や規模を表す大型グラフィックの展示。
来館者が改めて資料館設置の意義を実感し、展示鑑賞への期待感を高める。

導入展示(プロローグ)

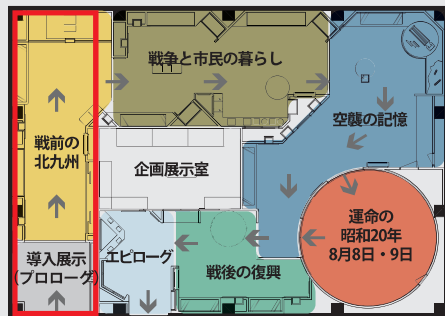
当館の趣旨を象徴的な写真と証言で伝える。また北九州市を構成する各都市の歴史的経緯をたどり展示室へと誘導する。

戦前の北九州

日本を代表する工業都市として北九州地域が発展する中で、陸軍の師団や関連施設が置かれたことを紹介する。

〈発展する北九州〉

交通の要所や工業都市等、様々な顔を持った都市として発展し、活気がある“まち”の様子や市民のくらしを紹介する。



小倉陸軍造兵廠米軍調査資料写真

大型
グラフィック

米国立公文書館から入手した写真。長崎に投下された原子爆弾の投下第一目標が小倉陸軍造兵廠であったことを物語る写真を、プロローグとして展示する。

イメージ例



発展する北九州を再現

立体
グラフィック

昭和14年頃の井筒屋百貨店前など、当時の街並みを背景に、発展する北九州を象徴する情景を立体的に再現する。

イメージ例



※立体グラフィックにする素材は仮のイメージです

画像検索装置

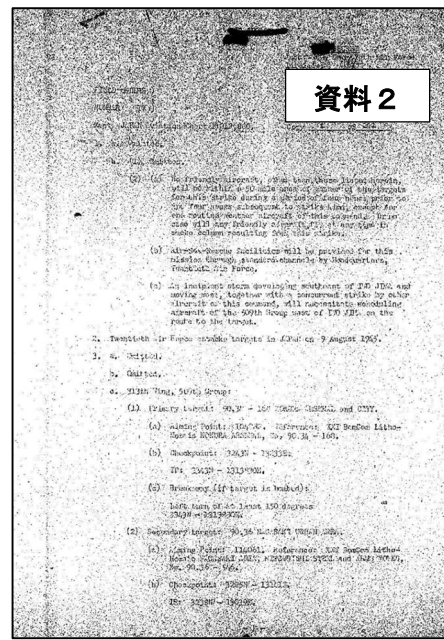
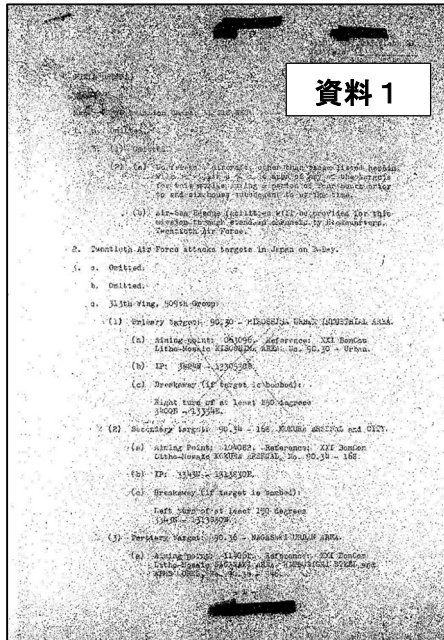
ハンズオンテーブル /
北九州のまち、今と昔を比べてみよう！

ごあいさつ、展示趣旨、北九州市の位置紹介、年表

プロローグ展示資料（案）

■資料館の世界観に触れる導入展示（原爆と北九州との関係）

- ・小倉陸軍造兵廠米国調査資料写真（大型グラフィック）
- ・米国による原爆投下命令書（小倉が投下目標であった）



資料 1 原爆投下命令書（第一投下目標：広島、第二投下目標：小倉）

資料 2 原爆投下命令書（第一投下目標：小倉、第二投下目標：長崎）

いずれの命令書にも投下目標として「KOKURA ARSENAL and CITY」（小倉造兵廠と市街地）と記載。

※出典：国立国会図書館

【参考：導入展示の例（広島市平和祈念資料館）】



▲被爆前の広島



▲失われた人々の暮らし
（焦土と化した都市）



▲資料館からのメッセージ

■その他の展示資料

- ・ごあいさつ、資料館の趣旨（資料館設置の経緯、勝山公園に設置する意味等）
- ・年表（明治から北九州市誕生までの国内外の出来事）
- ・北九州市の位置紹介

議題（３）

館の自主事業（展示以外）について

（説明資料）

- ・ 館の自主事業の（展示以外）の論点
- ・ 他都市の事例

議題（３）

（仮称）平和資料館の自主事業（展示以外）

懇話会での活発な議論のため、次のとおり、論点を示している。

論点１．子どもから大人まで学びを深めるための取り組み

論点２．近隣の施設や学校等との連携による来客者の確保のための取り組み

論点３．活動や魅力等を発信するための取り組み

【参考：基本計画での方向性】

（基本方針）

■北九州の戦争の記憶に触れて、ふるさとを愛する気持ちを“はぐくむ”ため

【学習機能】

- ・市民の体験や寄贈された資料等、収集資料を検証する。
- ・他都市の平和資料館等との連携を進め、収蔵資料を調査・研究する。
- ・学校と連携し、平和学習の場としての活用を図るとともに、市民の生涯学習を支援する。
- ・関連図書の配置や語り部による戦争体験の講演会等、来館者の学びを深める。
- ・展示鑑賞後、来館者が心の変化を確認できる仕組みを検討する。

■人々の交流の輪や資料館の活動、魅力を“ひろげる”ため

【交流・発信機能】

- ・戦争を知らない若い世代と戦争を知る世代の交流に向けた取り組み等を進め、資料館を拠点に様々な人々の交流や近隣施設への回遊を促進する。
- ・ホームページの開設や収集資料が閲覧できるデータベースを運用する等、資料館の活動や資料の価値等を内外に発信する。
- ・職員が出張し資料解説を行う出前授業等、アウトリーチを実施する。

（運営計画・集客）

- ・近隣施設等との連携やネットワークの構築や観光客等の取り込みを図る取り組みを検討。

他都市の戦争・平和資料館の自主事業例（展示以外）

他都市の戦争・平和資料館では展示以外にも、「語り部による戦争体験講演会」や「専門家による講演会」（次ページ参照）等を開催している例が多く、館によっては来館者の増加を図るため、工夫を凝らした取り組みを行っている。

また、館のPRや事業の案内、所蔵資料の閲覧等でホームページを活用している。

（工夫を凝らした取り組みの事例）

■来館者の学びを深める取り組み

・原爆被害の概要説明と学習報告（広島市平和祈念資料館）

中・高校生ピースクラブのメンバーが、原爆被害の概要等について、パワーポイントを使用し説明する。また、自分たちの興味と関心を基に決定したテーマについて調べ、模造紙にまとめた学習報告を展示する。

・夏休み ピースチャレンジ ～平和資料館で自由研究～（埼玉県平和資料館）

資料館職員による展示資料の説明や映画の鑑賞会の開催を通して、小中学生の夏休みの宿題をサポートする。

■他館との交流を通して平和を考える取り組み

・夏休み平和交流企画：ピースセミナーサマースタディツアー（川崎市平和館）

川崎市・世田谷区の市民を対象に、登戸研究所資料館・世田谷区立平和資料館・川崎市平和館を見学し、参加者同士が交流をしながら平和への理解を深める。

【参考：北九州市の主な平和の取り組み】

・嘉代子桜・親子桜の植樹

長崎への原爆投下により亡くなられた林嘉代子さん（当時15歳）の慰霊と平和への願いを込められた「嘉代子桜・親子桜」を植樹する。

・青少年ピースフォーラム派遣事業

全国の小・中学生等が被爆体験講話や平和祈念式典への参加などを通じて被爆の実相や平和の尊さを学ぶ「青少年ピースフォーラム」（長崎市主催）に小中高生等を派遣する。

・長崎市平和派遣事業

原爆資料館の見学や平和祈念式典への参列を通して、親子で平和の大切さを学びきっかけとするため、親子100組（200人）を長崎市へ派遣する。

・長崎～小倉次世代交流平和推進事業

国連軍縮週間に合わせ長崎市で開催される「市民大行進」に、大学生等を派遣し、現地の若者とともにボランティア活動に参加するなど、北九州市と長崎市の次の世代を担う若者同士の交流を図る。

・「後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験」冊子及びDVD

戦後70年を迎えた節目の年に、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代に語り継ぐため、広く市民の戦争体験談を募集し、冊子にまとめる等、記録・保存を図る。

「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」は、愛知県と名古屋市が共同で設置した「戦争に関する資料館運営協議会」によって運営されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



- ◎ 2015年9月の国連のサミットで、すべての加盟国(193カ国)が採択した世界の開発目標です。
- ◎ 発展途上国のみならず、先進国も取り組むこととしています。
- ◎ 2030年までの目標であり、17のゴール、169のターゲットに取り組んでいきます。
- ◎ 日本全体で取り組む達成すべき課題とその目標であり、北九州市も自治体として、市民や企業、団体などと連携し、市一丸となって、SDGsの達成に向けて取り組んでいきます。

参考

国連広報センター 2030アジェンダ

http://www.un.org/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/



ユニセフ 持続可能な開発目標 (SDGs)

<https://www.unicef.org/sdgs/>

